

CHARGE WG プレゼンテーション資料



1995年度以降の JPNIC会費に関する検討

1994年4月5日

会費検討ワーキンググループ

FINANCE-WG

(旧CHARGE-WG)

いままでの検討経過

- ・ JPNIC総会,会員の意見をうけ検討
 - ・ charge-wg ...'94年度会費案の検討
 - ・ future-wg ...法人化を含めた今後のJPNICの在り方を検討
 - ・ soc-wg ... JPNICの社会的位置付けを検討
- ・ 会費案を非公式に各会員に打診(12月末)
 - ・ (2:5問題で)回答のうち半数から反対
- ・ '94年度以降の会費
 - ・ '94年度は'93年度と同じ会費制度
 - ・ '95年度以降については、よりオープンな場で検討

再検討の理由

- ・ A:B比率の見直し
 - ・ アカデミック組織の支援の限界
 - ・ タイプBの組織からの見直し要求
 - ・ 学術判定が困難
- ・ 法人化へのステップ
 - ・ 専門スタッフの確保、安定したサービス
 - ・ 社会的認知、国立公費の支払問題
- ・ 地域ドメインの登場とその扱い
- ・ 会費の分割払いの要求

1994年度年会費案(12月末提出)



- 0) JPNICの主な収入は会員からの会費を基本
- 1) タイプAは'93年度の倍の口数とし，タイプBは据え置き
AB比率を徐々に縮めていき1997年に区別をなくす
- 2) 一口あたり会費(10万円)，区分/委員数は変更しない
'95年度以降、随時，これを見直す
- 3) 地域ドメインはパイロット期間中はカウントせず

会員からの意見(1)

- ・ 11ネットワークから回答
- ・ 6ネットワークより 2:5に反対
 - ・ 経済的に困難
 - ・ 検討時期として、すでに遅過ぎる
 - ・ ネットワークメンバーのコンセンサスを得ることが困難
 - ・ 現在の活動で十分。会費を増額する必要性なし

会員からの意見(2)

- ・ logカーブより，比例のほうがよい
- ・ タイプBの値下げを考えるべき．
- ・ 会員単位をドメインにし，個々に会費を納入したほうがよい
- ・ 複数ネットワークに参加する組織が重複してカウント
- ・ 学術とその他の判定基準があいまい
- ・ ネットワークのAUPではなく、組織の営利/非営利で
区別すべき

会員からの意見(3)

- ・ 会費が増額するとJPNICを退会せざるを得ない
- ・ アカデミックディスカウントを検討せよ
- ・ 地域ネットワークを圧迫する
- ・ 小さいネットワークプロジェクトを大切に
- ・ 会費の分納等を検討して欲しい

会員からの意見(4)

- ・ JPNICの活動資金を会員に転嫁すべきでない
- ・ APNICなどの活動については会員の総意のもとに行なうべき
- ・ 95年度の会費変更を継続して審議すべき
- ・ 幅広い意見を聞くべき
- ・ 会費算出基準の論理的根拠が弱い
- ・ 賛助会員を増やす，会員へ業務の協力を要請したら
- ・ 会費変更は初年度決算前に行なうことは不適當
- ・ 年度の終り頃になっての会費変更は無理
- ・ 急な変更はJPNICの信頼を失う

これからの検討方法

- ・ よりオープンな議論の場で検討を行なう
 - ・ Open-Finance-WG
 - ・ 必要に応じてSub-WGを構成
- ・ 10月ないしは11月に臨時総会を行ない決定

検討事項

- ・ 会員 , 会員資格
- ・ 会費のカーブとJPNIC委員の数
- ・ Aタイプ/Bタイプの考え方
- ・ JPNICの業務とは
- ・ 社団法人化
- ・ 資金
- ・ その他

会員，会員資格

- ・ 現在ネットワークプロジェクト単位
 - ・ JNICがネットワークの集まりとして構成されたため
 - ・ DNSの登録には会員ネットワークのスポンサシップが必要
 - ・ IPアドレスについては，会員・非会員の区別なし
- ・ CIDRにともなうネットワークプロジェクトへの役割り
- ・ 会員としてのメリットは？

会費のカーブとJPNIC委員の数



- ・ ネットワークのサイズに相關
 - ・ サイズをドメイン数で近似
 - ・ 対数
- ・ 手数と会費の関係は？
- ・ 委員数は会費との比例関係が必要？
- ・ 小規模・大規模のネットワークの発言が大きくなならない工夫
- ・ ドメイン数の数え方
 - ・ 重複カウントの問題
 - ・ 地域ドメインの考え方、個人と組織は同じ？

Aタイプ/Bタイプの考え方

- ・ アカデミックの判断基準、方法
- ・ アカデミックが安い根拠
- ・ 商用インタネットとの公平性とのバランス
- ・ 商用インタネットに対する業務が増えるなか、
アカデミックのボランティアがどこまで期待できるか？

JPNICの業務とは



- ・ 急増する業務
 - ・ プロバイダへの業務委譲はどこまで期待できるか
- ・ 国際協調へのかかわり
 - ・ APNICプロジェクトの支援
 - ・ InterNICとのデータ交換

社団法人化について

- ・ 安定した運用，恒久的なサービスを約束
- ・ 社会的オーサライゼーション/認知される
 - ・ JPNICのような活動は任意団体が行なうのはおかしい，と考える人がいる
- ・ 任意団体に対する公費支払いの問題の解決
- ・ 責任の所在が明確に
- ・ 寄付、助成、補助の対象
- ・ 年間3000から5000万程度は必要
 - ・ 独立した事務所と最低限一人の専従事務担当者とアルバイト体制
- ・ 一方で任意団体は
 - ・ 拘束が少ない
 - ・ ユーザ主導の立場が明確

その他



- ・ 資金
 - ・ 会費だけで良いか？
 - ・ 会費以外の財源 ... 具体的に
- ・ スタッフ，事務局の確保
 - ・ 専属スタッフ
 - ・ 事務所
 - ・ 設備

検討の前提条件

- ・ インタネットの国際協調の枠組に調和している
 - ・ アドレスは売らない
 - ・ InterNIC , APNICなどとの協調関係維持, 国内唯一のNIC
- ・ 現在の業務の維持
 - ・ アドレス割り当て、ドメイン名割り当て
 - ・ データベース運用(whois , ftp , DNS) , 情報提供
 - ・ ...
- ・ 現実可能である、具体性がある
 - ・ 財源、予算、人的資源
- ・ 中立、公正、迅速を目指す
- ・ JPNIC委員の少なくとも過半数の同意が得られる

スケジュール

- ・ 4月5日第1会検討会
- ・ 電子メールによるオンライン会議，1-2回の会合
- ・ 異なった考え方
 - ・ 必要であれば、いったんサブグループに別れ検討
 - ・ 集まって調整
- ・ 会費制度をひとつ、または複数提案
- ・ 10月ないしは11月に臨時総会を行ない決定